

交流による集落再生に取り組む事例

～春蘭の里実行委員会（石川県能登町宮地地区）の場合～

地域コミュニティで取り組む目的
限界集落から若い世代が生活できる収入を稼げる集落へ

農家民宿数：約30軒（1日1組限定）

廃校→交流宿泊所「こぶし」開設

農産物直売所の開設

・学校教育旅行の料金プラン

1泊2食+体験付き 1人9,500円

・大人向けプラン 1泊2食+地酒付き 14,500円～

・春蘭の里会員制度 → 年15,000円



1軒当たりの月売上目標額：40万円（交流人口の目標：年2万人）
平成24年度の受入実績 約1万人（日帰り含む）

今後の課題は“受入家庭の確保”

平成25年度に「子ども農山漁村交流プロジェクト」並びに子どもの農山漁村交流の取組を行っている受入地域(208地域)を対象に行った調査では、「持続的に受入を行うにあたっての課題」は「農家泊の協力農林漁家の確保」が6割(62.1%)を超え、最も多い。農林漁家泊の受入家庭の高齢化が進む中で、その確保が全国的な課題である。

(農林水産省事業「子ども農山漁村交流」報告書(平成26年3月)ランドブレイン(株))

項目	総計	
	回答数	割合
1. 体制整備に向けた活動経費の確保	67	46.2%
2. 小学校の誘致活動	48	33.1%
3. コーディネート・窓口機能の向上	65	44.8%
4. 行政との連携の強化	42	29.0%
5. 体験活動の指導者・インストラクター等の確保	55	37.9%
6. 体験活動の補助員の確保	43	29.7%
7. 農家泊の協力農林漁家の確保	90	62.1%
8. 受入組織の担い手の確保	63	43.4%
9. 地域リーダーの育成・確保	52	35.9%
10. 体験プログラムの開発	54	37.2%
11. 衛生関係等の監督部署からの指導	17	11.7%
12. 安全対策の徹底	52	35.9%
13. 受け入れ拠点施設の整備・改修	29	20.0%
14. 受け入れ料金の値引き・低料金	6	4.1%
15. 特に課題はない	0	0.0%
16. その他	7	4.8%

今回の要望は

“小規模型の農林漁家民宿”に係る対象範囲の拡大

(旅館業法「簡易宿所」)

農林漁家泊の受入家庭の高齢化が進み「農家泊の協力農林漁家の確保」が課題となる中で、農山漁村地域で生計を立てている農林漁業者以外の者(農山漁村地域に移住者を含む)にも受入家庭になれるように、“小規模型の農林漁家民宿”に係る対象範囲の拡大を希望します。

規制緩和の要望

農林漁業者に限定して撤廃した「延べ床面積33㎡以上」の条件を“農山漁村地域で生計を立てている農林漁業者以外の者”に拡大

既存の条件を活かした“農業者の範囲の拡大”
(ただし、都道府県・市町村の農業委員会の範疇)